

2018年(平成30年)3月期 第3四半期 決算説明会 主要な質問に対する回答の要約

Q: 通年見通しについて売上収益・調整後営業利益が上方修正されています。主としてどの地域やセグメントでの上方修正ですか？

A: 第3四半期の業績では中国、米州、欧州をはじめとして好調に物量が増加しました。これらを受けて通年の油圧ショベル需要見通しを7千台上方修正、当社の売上収益見通しを400億円上方修正しています。背景としては、中国では高いインフラ投資の減速を想定して慎重に見ていたものの、油圧ショベル需要は上半期の高い伸び率が第3四半期も継続したこと、米州需要も住宅着工とエネルギー関連建機需要を中心に想定を上回ったことなどがあります。

Q: 第3四半期迄の売上収益が対前年大幅増加しているのに比べ、第4四半期が対前年減収となっていますが、理由をお聞かせください。

A: 当第4四半期が対前年減収となっている理由は、前年第4四半期の為替レートより円高で想定しているためです。これ以外には中国の春節時期ずれの影響も加味しています。

Q: 日本の油圧ショベルの需要は前年比16%増加見通しとなっていますが、売上収益は、第3四半期、通年ともに前年比減少しています。理由を教えてください。

A: 日本の売上収益は、2016年度末で日立住友重機械建機クレーン(株)を持分法適用会社化した影響により連結売上収益が減少していますが、この影響を除けば、第3四半期も増加、通年も増加する見込みです。

Q: 今年度のマイニング事業の売上収益の見通しについてお聞かせください。

A: マイニング本体については、昨年度末で150トン未満のダンプの生産・販売を中止したことが影響し、売上収益が減少しています。一方、マイニング部品サービスについては、第3四半期迄の実績は前年比2割以上の物量増と為替により増収、第4四半期の見通しに関しても前提為替レートの影響を受けて減収となっていますが、物量ベースでは前年比増収の見込みです。

Q: ソリューションビジネスセグメントの2社のPPA(資産再評価)による償却等の実績、および通年見通しについて聞かせてください。

A: 第3四半期累計実績では、たな卸資産一括償却としてH-E Partsの7億円とBradkenの24億円で、合計31億円を、無形固定資産償却を17億円計上しました。通年では合計60億円の償却を想定しています。内訳はたな卸資産一括償却31億円、有形・無形固定資産償却29億円です。